

「救いたい心」をつむぐコミュニケーションマガジン

# 赤十字NEWS

Japanese Red Cross Society NEWS

<https://www.jrc.or.jp>

令和4年6月1日(毎月1日発行) 赤十字新聞 第985号 昭和24年9月30日 第三種郵便物認可

JUNE 2022 NO.985

# 6



わたしも赤十字

寄付の協力者

写真左から、ツエーゲン金沢所属豊田陽平選手、西川圭史さん、廣井友信選手【P.4でご紹介】

## 特集

6月14日は認知症予防の日

# もしも、認知症の方と街で出会ったら…

赤十字の最新情報をSNSでチェック!



赤十字新聞 編集・発行/日本赤十字社 広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL: 03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は会費に含まれています。

人間を救うのは、人間だ。

 **日本赤十字社**  
Japanese Red Cross Society



6月14日は認知症予防の日

# もしも、認知症の方と街で出会ったら……

認知症が原因で行方不明となる方は、年間で1万7565人※。誰もが日常で、困っている認知症の方と遭遇する可能性があります。そのような場合でもむやみに恐れずに、「命を守る・困っている人を助ける」ために大切なのは、日頃から認知症についての知識と対処法を知っておくこと。理解を高めるためのポイントを紹介します。

※2021年発表、警察庁集計より

## こんなケースは認知症かも？



### 失行・失認・失語

普段の何気ない行動が意識するとできなくなります。財布を出してお金を払ったり、箸やスプーンの使い方がわからなくなることも



### 暴力・暴言・サポート拒否

考えの通りにならないことへの不満や、介護者からの命令や制止への対抗から暴言をはいたり介護やサポートを拒否することがあります



### せん妄(錯乱・幻覚)

意識障害が起こり頭が錯乱した状態です。幻覚を見たり、興奮して大声を出す場合も。夜になると出る「夜間せん妄」もあります

### 認知症とは——

認知症は、脳の病気や障害などさまざまな原因により、認知機能が低下し、日常生活全般に支障が出てくる状態をいいます。仕事や生活で普段やっていたことができなくなる、慣れた道で迷う、話が通じなくなる、憂うつ・不安になる、気力がなくなる、妄想があるなどのサインに注意が必要です。



日本赤十字社  
健康生活支援講習指導員  
佐藤和美 参事

## 他人事ではない「認知症」、地域との共生で自立の道も

認知症になると何もかもわからなくなってしまう。そんな先入観をお持ちではないでしょうか。しかし認知症になっても「感情」は残ります。「失敗したくない」「恥をかきたくない」という気持ちは健常者と同じ。接する際には相手の自尊心(プライド)を傷つけないように心掛けたいものです。

道端で呆然としている方を見掛けても、ジロジロ見るのは禁物です。まずは本人や他の人に気づかれないように一定の距離を保ち、さりげなく見守りましょう。交通量が多いなど危険そうな場所であれば「何かお困りですか」とお声掛けしてもいいかもしれません。その際はできるだけ1人で、相手に視線を合わせてゆっくりと話し掛けてください。最初は「大丈夫です」と拒絶する場合でも、実際は困っていることも。離れて見守り、困った様子が見られたら、もう一度トライしてみてください。

認知症は特別なものではなく、誰にでも訪れる可能性があります。そして認知症になっても何もできなくなるわけではなく、残された力を生かし、地域と共生することで自立されている方はたくさんいます。

高齢化が進んだ現代では、認知症を地域全体のことで捉えた取り組みが広がっています。認知症の方やその家族が安心して暮らしていける地域づくりのためには、子どもから大人、高齢者も含めて1人でも多くの住民が認知症を正しく理解することが何よりも大切です。

日赤の各県支部では、高齢者介護の技術や認知症の知識を習得できる「健康生活支援講習」を実施しています。認知症の方を理解し、サポートするために、ぜひお役立てください。

### 日赤が開催する「健康生活支援講習」

高齢期を健やかに生きるために必要な健康増進の知識や、高齢者の支援・自立に向けた役立つ介護技術を習得できる講習です。この講習は一般の方(団体)のご要望に応じて、お近くの会場で開催することも可能です。

詳しくはお住まいの地域の日赤支部にお問い合わせください。

<https://www.jrc.or.jp/study/kind/house/>





## 認知症への対応 7つのポイント



認知症の人は強い不安を感じています。目線を合わせ優しい対応が大切です

### ①一定の距離を保って見守る

認知症の人に気づいたら、さりげなく、まずは様子を見守ることが大切です。近づきすぎたりジロジロ見るのは禁物

### ②声掛けは大人数でなく1人で

認知症の人は、複数人で取り囲まれると恐怖を感じてしまうことも。できるだけ1人で声をかけましょう

### ③目線を合わせて優しい口調で

目線を合わせ優しい口調で対応しましょう。小柄な方の場合は、姿勢を低くして目線の高さを合わせると良いです

### ④穏やかに、はっきりと話す

耳の聞こえにくい人も多いので、話すときはゆっくり、はっきりと。早口、大声、まくしたてるのは逆効果

### ⑤後ろから突然声を掛けない

背後などからの唐突な声掛けは禁物です。相手の視野に入ってから「お困りですか？」などと呼びかけて

### ⑥相手の言葉に耳を傾け、ゆっくり対応

認知症の人は急かされたり、同時に複数の質問をされるのが苦手です。相手の反応を見ながら会話しましょう

### ⑦心に余裕を持って対応する

こちらが困惑や焦りを感じていると、相手にそれが伝わって揺さぶらせることに。落ち着いて笑顔で対応しましょう。もし相手が怒りだすなど反発した時は、止めようとすると余計に興奮することもある。その場合は離れて見守ります



困っているように見えても、背後から唐突な声掛けは恐怖心をおおるのでNG

## 不安と混乱、 苛立ちが積もって…

### ～山崎さんご夫妻の場合～

山崎清さん(84歳)は、認知症の妻・和子さんを自宅で介護していました。しかし、認知症が進行するにつれ、和子さんは清さんが眠った深夜に家を抜け出し、徘徊してケガをするように。「お父さんが、おらん」……隣に寝ている夫を認識できず、夫を探すために徘徊する和子さん。清さんは自宅での介護を断念し、特別養護老人ホーム「やすらぎの郷」に和子さんを預けました。毎日、面会する中で、清さんは気づいたことがあります。「妻が穏やかになりました。家にいた時は怒ったり乱暴になったりすることもあったのですが」。認知症のせいで優しく朗らかだった和子さんの性格が変わってしまった、と清さんは感じていましたが、和子さんは認知機能の低下により不安と苛立ちを抱えていたようです。周囲が認知症の特性を理解し、余裕を持って接することで、本人の不安を減らすことができます。



ホーム入居の前日、自宅で記念撮影した山崎さんご夫妻

## 認知症だからと行動制限せず、環境を整える発想の転換を



成田赤十字病院では、認知症の方のベッド脇に開閉できる手すりや足元に緩衝マットを設置して安全面を強化している

認知症の方が病院に運ばれてくる最も多い原因が、転倒による骨折です。高齢による足腰の筋力の低下に加えて、認知症の方は空間を把握する機能が低下していたり、視野が狭くなっていたりすることもあるため、周囲に注意を払うのが苦手になります。

事故が起こるのは家の中がほとんどですが、屋外では側溝に落ちたり、駐輪場の輪止めにつまずくなど、環境によって引き起こされる事故が多いようです。

認知症の方には「迷子になるから家にいてほしい」「けがをするから動き回らないでほしい」と考えがちです。しかし運動機能に問題がない方は、ADL(日常生活動作)を落とさないためにむしろどんどん動いてもらうこと。そのために「環境を整える」という発想が大切です。

成田赤十字病院では認知症の方に安全に院内を動いていただける環境づくりをしています。たとえば高齢者のベッドにはバランスを崩さず立ち上がるための手すりを付けたり、転んでもけがをしないようにベッドサイドに緩衝マットを敷くなどしています。入院中に筋力や機能を低下させず、自立を維持するための配慮です。日赤の各病院には認知症看護の研修※を受けた看護師がおり、それぞれの病院で工夫されていると思います。

空間認知の機能が低下しても、アクセスがわかれば「1人でトイレに行き、1人でベッドに帰ってくる」ことはできます。認知症の症状は人それぞれですが、介護者がその人に合わせた「できること探し」をして、自分でできることは自分でしてもらう。それが現代の認知症介護のあり方です。



成田赤十字病院  
認知症認定看護師

佐々木香 係長

### 日赤の実施した「※認知症看護実践力向上研修会」

2016年から2019年にかけて、全国91の赤十字病院から看護師1240人を集めて実施された当研修では、認知症患者を理解し、症状に応じて適切な医療や看護を提供するために必要なスキルを持った看護師を育成しました。認知症認定看護師の資格取得はハードルが高く、資格を有する看護師は全国でもまだ数少ないものの、この研修を通して知識と技術を高めた看護師が、全国の赤十字病院で認知症患者やその家族の支援に尽力しています。



## TOPICS

全国赤十字大会が3年ぶりに開催！

## 名誉総裁 皇后陛下ご臨席

青空が広がる5月19日、明治神宮会館にて令和4年全国赤十字大会が開催され、名誉総裁である皇后陛下から、事業に功績のあった個人や団体に対し有功章の授与などが行われました。



日本赤十字社名誉総裁の皇后陛下、名誉副総裁である秋篠宮皇嗣妃殿下、寛仁親王妃信子殿下、高円宮妃久子殿下のご臨席を仰ぎ、令和4年全国赤十字大会が明治神宮会館(東京都渋谷区)で開催されました。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、開催は中止に。今回は感染防止策

を徹底し、3密を避けるために規模を縮小。全国から会員やボランティアの代表約600人が見守る中、赤十字活動に著しい功績のあった個人や団体が表彰されました。皇后陛下から有功章が授与されたのは代表受章者の13人。また、社長表彰受彰者は2人でした。

式典では、大塚義治社長のあいさつの中で、

コロナ医療の最前線で献身的に業務に当たるスタッフへの敬意とともに、全国からの温かなご支援に感謝の意を表明。古賀篤厚生労働副大臣からはお祝いの言葉が述べられました。

さらに、武蔵野赤十字病院(東京都武蔵野市)の泉並<sup>なみき</sup>木院長は新型コロナウイルス感染症拡大における初期段階からの対応や取り組み(ノ)

わたしも赤十字

今月の表紙

赤十字にはさまざまな形で赤十字の活動に参加する支援者がいます。全国の支援者の中から毎月お一人を、温かいメッセージと共にをご紹介します。

## 日赤とのコラボで、さらなる「地域貢献」を



寄付の協力者

にしかわけいし

西川圭史さん

石川県金沢市／45歳  
プロサッカークラブ・ツエーゲン金沢  
代表取締役ゼネラルマネージャー

ツエーゲン金沢は、令和2年8月に日赤とパートナーシップ協定を締結し、人々の命と健康を守るための社会貢献活動を連携して行っています。地域に貢献することはJリーグの理念でもありますから、選手もモチベーション高く普段から積極的に参加しています。年に1回開催する「赤十字応援試合」では赤十字ブースを設け、これまでに来場した方にAEDの体験をしていただいたこともあります。皆さん、AEDの知識は大切だと分かっていても、実際に講習を受ける機会は少ない。試合を見に来たスタジアムで知るきっかけを得られた、と喜ばれますね。実はAEDはスタジアムにも常時3カ所に設置し、遠征に持っていくことなどがJリーグで義務付けられています。万一の際、選手やスタッフが実際に使える必要があるので、私たち自身も救急法講習の重要性を感じています。

昨年は日赤とコラボで、防災減災をテーマに、パートナー企業も参加するイベントを実施しま

した。災害時に役立つ電気自動車の紹介や、地元のスーパーさんの協力で、避難生活で必要となる1週間分の食料を並べ、備蓄食料を消費期限の近いものから食べて買い足す「ローリングストック」の紹介もし、防災啓発の機会となりました。

私たちの試合では、ホームゲームの来場者数1人に付き1円を日赤に寄付します。日赤への寄付が地域貢献にもつながるので、応援してくださる皆さまへの恩返しにもなります。より多くの方に試合に足を運んでいただく、そのためにもチームを強くしていきたいですね。

## 寄付するあなたも赤十字です

- クレジットカードで寄付
- 郵便局・銀行の口座振替
- 郵便局・銀行の窓口
- お近くの日本赤十字社窓口





を報告。埼玉県青少年赤十字卒業生奉仕団の副団長、加藤緩<sup>かん な</sup>さん(加藤)は「奉仕」の精神を育んだ青少年赤十字での活動を発表しました。皇后陛下は登壇者の話に、時に大きくうなずかれながら、



熱心に耳を傾けられました。

本年は青少年赤十字創設100周年を迎える節目の年。これを記念して最後に大妻中野中学校・高等学校合唱部180人による100周年合唱ムービーを上映。見事な合唱と共にウクライナ人道危機などの赤十字活動がスライドで紹介されると、会場は熱い感動で包まれました。

実践活動の報告



武蔵野赤十字病院  
(東京都武蔵野市)  
院長  
**泉並木**さん



埼玉県青少年赤十字  
卒業生奉仕団  
副団長  
**加藤緩**さん

**地域のため職員一丸となり  
コロナ対策に尽力**

赤十字病院グループにおいて新型コロナウイルスの感染者を多く受け入れている武蔵野赤十字病院。泉並木院長は令和2年1月から感染拡大における院内の対応について報告。「医療資材の不足など緊迫した状況下、時には感染防護具を病院職員が自作までし、全職員が一丸となって新型コロナに立ち向かいました」。皇后陛下から「大変ご苦勞の中、職員の方の心のケアをしながらよくまとめてくださいました」とねぎらいの言葉をかけられた泉院長。「赤十字の使命を改めて実感させていただきました」と語りました。

**自らを成長させた  
青少年赤十字の活動**

大学3年生の加藤さんは、高校時代に青少年赤十字の活動を通して培った「リーダーシップと奉仕の精神」について発表。「自分は人のために何ができるのか。一人一人に寄り添うことが奉仕の精神の一つだと学びました」。現在も赤十字ボランティアとして手話の学習会を開催するなど活動を継続。皇后陛下からは愛子さまと同世代であることに触れられ、「フレッシュさを大切にしてください」と激励を受け、「自信を持って今後も進んでいきたい」と決意を新たにしました。



大妻中野中学校・高等学校の合唱部は「カイト」「ハナミズキ」を披露。皇后陛下は、「とてもきれいな合唱ですね。素晴らしい歌声でした」とのお言葉を部員の方に向けられました

# 献血 まるわかり 辞典

「なるほど!」と思わずひざを打つ“献血にまつわる豆知識”を紹介。第3回のテーマは先端部分に大きな秘密がある「針」です。

vol.3



## さいけつ - しん 【採血針】

するりと入り込んで、ストレスなし!  
知られざる「針先」のヒミツ

針の太さはG(ゲージ)という単位で表されます。海外で使用する全血献血用の針は、ほぼ爪楊枝と同じ太さの16G。日赤では一段階細い17G(外径1.4mm)を使っていましたが、数年前からはさらに細くなり18G(1.2mm)を採用しています。

世界的に見ても細い針で、針先が挿入される際の切開部を小さくするだけでなく、献血者の恐怖心の軽減にも配慮しています。針の先端部分は、“刺す”というよりも刃物のような鋭さで小さく切り開き、するりと皮下に入り込む形状。皮膚への引っかかりを感じさせない設計として2段階になっている角度にもコダワリがあります。安全面の配慮では、先端の刃面が長いと挿入時に血管を傷つけてしまう恐れがあるため、刃面の短いタイプを採用しています。

一方で、針は細くなりましたが細いストローで大

量のジュースを早く飲むのが難しいように、献血でも細い針では抵抗が増えて採血のスピードが落ちてしまうという問題がありました。そこで、針自体の長さを少し短くし、針先端部に開口部「バックアイ」を設置。針が短くなったことで抵抗が減り、バックアイのおかげで針先から取り入れる血液量が増えた上に、血管壁に針の背面がピタッと張り付く現象がなくなりました。献血時間も短くなり、献血者の方の負担も軽くなっています。このように最新の採血針は、革新的な進歩を遂げているのです。

(※今回ご紹介したのは日赤で採用している針の一つであるテルモ社製の針の特徴です。)

【針先端】



先端部は刃物のような鋭さでするりと皮下に入り込むようにできており、より抵抗が少なく挿入できるよう途中で角度を変えている

【バックアイ】



バックアイができる前は、血管壁に針の背面が張り付いて採血が止まってしまうことが多く、その度に看護師が針の向きを変えていた





全国各地  
あなたの生活のすぐそばで  
日本赤十字社の活動は  
行われています。

## 新潟県

新潟独自のWEB申請スタート  
「赤十字講習会申込システム」

日赤新潟県支部は、赤十字救急法や防災プログラムなどの各種講習にWEBで申し込める新システムを開発しました。初めての方でも講習内容を理解しやすいように画像や動画を多用し、選択項目も細分化。防災プログラムでは、数ある講習の中から災害の種類(地震・風水害など)を選択し、さらに救急法との組み合わせも可能など、利用しやすさを重視しています。



開催が決定している講習会への受講申し込みも可能  
<https://niigata-jrc-seminar.jp/>



## 岐阜県

「苦しんでいる人々を救いたい」  
全国に広がるウクライナ募金

ウクライナ国内および周辺国での赤十字の救援活動、人道支援に多くの関心をいただいています。各県の日赤支部では、赤十字ボランティア、企業や市民団体から「ウクライナ人道危機救援金」にご支援が寄せられ、岐阜県支部では岐阜ミセスフォークダンスクラブの皆さまから救援金を託されました。この紛争に苦しむ人々を救いたい、という思いが全国に広がっています。



「ウクライナ人道危機救援金」受付中  
募集期間: ~2022年9月30日(金)まで



## 福井県

## 高知県

## 宮崎県

## 5月は赤十字運動月間。全国各地で活気あるイベントが復活！

コロナ禍による活動自粛が続いた2年間。今年5月は、感染対策を講じて全国で「赤十字運動月間」イベントが復活・新生しました。

日赤福井県支部は5月3日～5日に開催された「はたらく車大集合!! 2022」に初参加。赤十字の救護資器材運搬用トラックの展示のほか、「もっとクロス! 赤十字展」と銘打って非常食の炊き出し配布や防災グッズ作製などを展開、連日大盛況となりました。

高知県支部では3年ぶりとなる「赤十字運動月間啓発パレード」を実施。ハー

トラちゃんフラッグが掲げられたアーケード内を、土佐女子中学・高等学校バトン部・吹奏楽部に先導され、赤十字ボランティアやJRCメンバーと共にパレード。商店街の観客に見守られ、終始にぎやかな雰囲気になりました。

女子サッカークラブ「ヴィアマテラス宮崎」とコラボレーションした宮崎県支部。ホーム開幕戦に合わせて試合会場で運動月間イベントを開催し、選手たちと共に赤十字の活動をPRしました。日頃から献血にも協力してくれる選手たちの熱心な呼び掛けは、入場者400人の関心を集めました。



## 福井

ハイゼックス非常食の炊き出しにも長蛇の列が



## 高知

観客からは「街が明るくなっていいね」と好評



## 宮崎

選手らは炊き出しも体験(撮影用にマスクを外しています)

## 赤十字はじめて物語

日本赤十字社の9つの事業 その出発点にはそれぞれの「はじまり」のストーリーがありました。

vol.

3

赤十字ボランティア

## 日赤初のボランティアグループ「篤志看護婦人会」誕生のきっかけ

現在、日赤ボランティアの登録人数は、116万8711人。奉仕団(ボランティア・グループ)は2905団になります。最初の奉仕団は高貴な女性たちによって結成されました。端緒となったのは、1880年5月に開催された博愛社社員総会で行われた演説です。演者はハインリヒ・シーボルト、幕末の長崎で西洋医学を広めたドイツ人医師フィリップ・シーボルトの次男です。「ヨーロッパの赤十字活動では女性が救護活動を行うなど活躍している」と紹介し、女性の参加や活動を後押ししました。1887年6月、有栖川宮妃董子妃殿下を初代幹事長として「篤志看護婦人会」が発足。幕末から明治にかけて起きた悲慘な戦争を知る女性たちが集い、赤十字の旗のもとで応急手当の講習会や、看護教本の出版支援などを行いました。

特設サイトで  
より詳しく  
読めます →



## 135年前にはじまった、ボランティア活動



北清事変(1900年・明治33年)の負傷兵を慰問する篤志看護婦人会



## 大阪府

大阪大学 適塾記念センターにて  
生誕200年記念特別展示

日赤の創設者・佐野常民は緒方洪庵の「適塾」で医学を学び、「医は仁術」の精神を教えられました。洪庵の妻として塾生たちを支えた緒方八重と常民は共に文政5年(1822年)生まれ。適塾記念センターでは、生誕200年記念シリーズとして「緒方八重と佐野常民」(6月12日まで)の特別展示を開催。幕末の時代を見つめる八重の書状や常民の漢詩など貴重な史料が公開されます。



常民(左)と八重の肖像。適塾は大阪大学の精神的源流と言われる

## 広島県

「母の日献血」に感謝を含め  
カーネーションをプレゼント

コロナ禍による献血者減が解消されず、広島県では4月だけでも計画の800人を下回る、ぎりぎりの状況です。そんな中、5月の母の日に献血した方にカーネーションをプレゼントする「母の日献血」が広島県内2カ所の献血ルームで実施されました。花き園芸農業協同組合カーネーション部会から提供された花は600本。ボランティアの学生らから手渡された花を献血協力者は笑顔で受け取りました。



「母の日献血」は全国各地の献血ルームで華やかに実施された

## 常任理事会開催報告

令和4年5月20日、令和4年度第2回の常任理事会が開催されました。

今回の常任理事会では、トータルリワードの観点からの人事戦略と施策について審議し、ウクライナ人道危機について報告しました。

## 第100回代議員会開催公告

令和4年6月24日(金)、午後2時から新霞が関ビル「全社協・灘尾ホール」(東京都千代田区霞が関3丁目3番2号)において第100回代議員会を開催し、下記の事項を付議いたします。

令和4年6月1日

記

- 第1号議案 役員の選出について  
第2号議案 令和3年度事業報告及び収支決算の承認について

## 東京都

青少年赤十字100周年記念  
オンラインイベントを開催！

5月5日、日赤の青少年赤十字(JRC)創設100周年を記念して、オンラインのオープニングイベントが開催されました。JRC活動を行う高校生や指導者らが登壇し、参加した全国の中高生や指導者450人と共に未来に向けて今できることを考え、語り合いました。今後、全国のJRC加盟校や都道府県支部において100周年事業の活動を活発に実施していく予定です。



JRCメンバーの夢や日々の活動の悩みを指導者とともに解決

世界の課題を体感できる、名作ショートフィルム  
「戦争と生きるカプログラム supported by 赤十字」

米国アカデミー賞公認の国際短編映画祭「ショートショート フィルム フェスティバル & アジア 2022」で今年も上映される「戦争と生きるカプログラム supported by 赤十字」。

世界126の国と地域から集まった5720本の中から、えりすぐりの約200作品を上映。カンヌの広告映画祭でグランプリを受賞した「HOPE(希望～彼女の命を救えなかった理由)」や赤十字マークの正しい意味を伝える「希望のマーク」も。

表参道など複数の会場のほか、オンラインでも無料配信されます(一部有料)。

「戦争と生きるカプログラム」配信・上映期間：6月4日(土)～30日(木)を予定。作品紹介・視聴方法など、詳しくは2次元バーコードから。

## 「少女の腕の中で」



ナチスに村を焼かれた少女がサーカス団と行動をともにする。一行はのちにナチスと遭遇し、少女のジャグリングが運命を握ることに。ロシア制作ドラマ

詳しくはこちらから⇒



## 「ナラニ村での出来事」



ドイツ制作ドラマ。武装グループのわなにかかり生き残ったのは、開発援助に関わるカーリーナと若い兵士・ルカ。2人はそれぞれの目的に向かって戦うことに

## 「ヤッラー、さあいくぞ」



1982年のパイルートを舞台にしたフランス製作アニメ。内戦で破壊された故郷を離れる決意をした主人公のニコラスの前に無謀な若者ナジが現れる

## 「赤十字を応援！」プレゼント

## パートナー企業紹介 vol.26

## 八幡グループ



## 人々の笑顔、幸福に寄与する…企業ポリシーに相通じる、赤十字の活動に共感



河川の清掃作業を通じて、地域に密着して謙虚に感謝する精神と「世の中に役立っている自分が見える」人材を育成する

八幡グループは、昭和41年に持ち帰り用の寿司<sup>すし</sup>を販売する「八幡寿司」として創業し、現在は持ち帰り寿司・弁当販売のほかに大型居酒屋や寿司店を経営するなど石川県全域で事業を展開しています。「笑顔の食ランド・夢ランド」というメッセージと共に、笑顔を生み出すメニュー開発や店づくりに注力。人材育成にも力を入れ、新入社員研修の一環として河川の清掃を行うなど、その地域になくはならない企業を目指しています。

同社の社訓の1つが「我々は、日々の仕事を通じてより多くの人々を幸福に いかん寄与するかを考え、“心の豊かさ”を創造せよ！」です。この実践と赤十字の活動には相通じるものがあると考え、日頃から赤十字活動の推進に協力。昨年度は日赤石川県支部が計画した「愛と平和のワンコイン募金」に賛同し、店頭で募金箱を設置して活動を支援しました。

## 能登八幡の味わいBOX

6名さまに



八幡自慢のだしをベースに作り上げた能登おでん、牛すじ味噌煮などチルド製品7袋をセットに

商品写真はイメージです

上記プレゼント希望者は、以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・WEBでご応募ください。①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢 ⑤赤十字NEWS 6月号を手にした場所(例/献血ルーム) ⑥6月号に関するご意見・ご感想 ※ご応募いただいた個人情報はプレゼントの発送および弊社からのお知らせのみに利用いたします。

郵送/〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3  
日本赤十字社 広報室 赤十字 NEWS 6月号プレゼント係  
FAX/03-6679-0785 WEB応募/右の2次元バーコードからご応募ください。  
6月30日(木)必着 ※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます

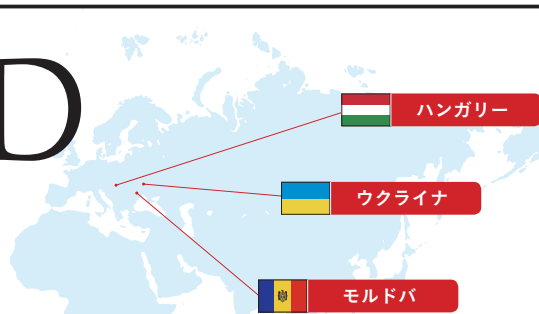
こちらから  
応募  
できます





# WORLD NEWS

## ウクライナ人道危機



診療所設置地の横で物資を配布するウクライナのボランティアと共に(前列右が仲里さん)

## ウクライナ避難民を支援する 日赤派遣職員のミッションとは

ウクライナ国内に、国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)が支援し、ウクライナ赤十字社が運営する仮設診療所が立ち上がります。日赤はウクライナと周辺各国へ職員を派遣し、さまざまな支援を行っています。現地で活動する3人の日赤職員から話を聞きました。

### 救援活動で大切なのはスピード感

ウクライナの隣国・ハンガリーのIFRC欧州地域事務所には、今回のウクライナ人道危機に対応するための本部が設置されています。この本部に派遣された日赤本社の松山勇樹さんは、ウクライナおよび周辺7カ国でのニーズや赤十字の活動についての状況を把握しながら、国際赤十字と連携し、日赤のリソース(資金・物資・ノウハウ・人的支援)を投入するための協議・調整・手配を行いました。

「救援活動はスピード感が重要です。ハンガリーにいるメリットは、ウクライナやIFRC本部のあるジュネーブと時差のない欧州時間で活動できること。『ウクライナに国際経験豊かな薬剤師を投入したい』という要請が日赤に入った際にも迅速に大阪赤十字病院の薬剤師・仲里泰太郎さんを推薦し、実現しました」

仲里さんはウクライナ西部のウジュホロド市に4月末から派遣されています。ハンガ



ハンガリーのオフィスでIFRCの職員と話す松山さん(右)

リーの国境に近い同市は退職後の高齢者が多く住むのどかな田舎町でしたが、2月の紛争勃発以降、主にウクライナ東部の激戦地から約30万人の国内避難民が押し寄せています。「現在はフィンランド赤十字社と美術館の中庭に仮設診療所を設営しています。私は他国での設営経験もありますが、支援の長期化を見据えて、今回は基礎工事より本格的です」

ウクライナでも比較的安全とされるウジュホロドですが、毎日のように空襲警報が鳴り、その度に作業を中断して防空壕へ。空襲警報が鳴ると、のどかな町の空気が一変し、通りから人の姿が消えます。

「今の私の任務はウクライナ避難民のための『薬局づくり』です。貴重な資材を無駄にしないため、薬や医療資材の出納を管理するデータベース作成や、患者に渡した薬を記録する医薬品カルテの準備などを進めています。先日、街で買い物中にウクライナ軍の青年から、支援に来てくれてありがとうと話し掛けられました。彼は6月に東部の激戦地に向かう、と…。私も、今できることに向き合います」

### 終わりが見えない…前例のない人道支援

一方、ウクライナの隣国モルドバ共和国には大阪赤十字病院の河合謙佑さんを3月末から派遣。欧州最貧国といわれる同国には、人口の20%近い約47万人の避難民が流入。その5分の1弱が同国に留まり、多くはホス

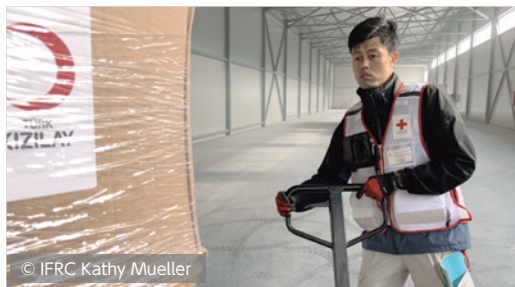
トファミリー(避難民を受け入れる一般家庭)のもとにいてと考えられ、避難民の全容の把握を難しくしています。

「モルドバ赤十字社とIFRCではホストファミリーのもとにいる避難民に対しても毛布や衛生キットの配布をしています。また今後は生活支援金の給付も検討しており、その実現性を模索しています」(河合さん)

避難民を受け入れているモルドバを、国際赤十字がどう支えていくか。組織力が強固とはいえないモルドバ赤十字社自体への支援も重要だと河合さんは言います。

「モルドバ赤十字社では救援物資を管理する倉庫を借りたばかりです。適切な倉庫管理のノウハウやそれを担う人材育成なども今後の自分の役割です」

IFRCの緊急支援は通常3～4カ月で終わる仕組みですが、ハンガリー派遣の松山さんは「この支援は復興も含めれば10年以上かかるかもしれない」と語ります。規模も期間も前例のない人道支援に、日赤の職員たちの活動はこれからも続きます。



モルドバ赤十字社の新しい倉庫に救援物資を搬入する河合さん

皆さまから寄せ頂いた「ウクライナ人道危機救援金」などから国際赤十字に対して以下のとおり緊急資金援助を実施しています。

合計支援金額 **37.2億円** ※2022年5月31日時点  
(内訳:IFRC 18.6億円/ICRC 18.6億円) 詳しくはこちら⇒



© IFRC

## 赤十字、世界の「現場」から

supported by IFRC

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)、赤十字国際委員会(ICRC)、日赤の事業地で切り取られた1枚。知られざる世界の赤十字活動。

ウガンダ北部の集落に避難して来た南スーダンの人々。毎日約2500人が南スーダンの国境を越える…無差別な殺害、虐待、レイプ、略奪から逃れるために。避難によって人々は農業を営むことができない。そこに干ばつも重なり、深刻な食糧不足が続くため、特に子どもたちには重度の栄養失調がみられる。

6月20日は世界難民の日。ウガンダはアフリカ内で最多となる140万人の避難民を受け入れている。その多くが南スーダンの人々である。IFRCはウガンダ赤十字社と共に30万人の避難民を対象に人道支援を実施することを決定し、あらゆる緊急救援ができるよう、準備している。